

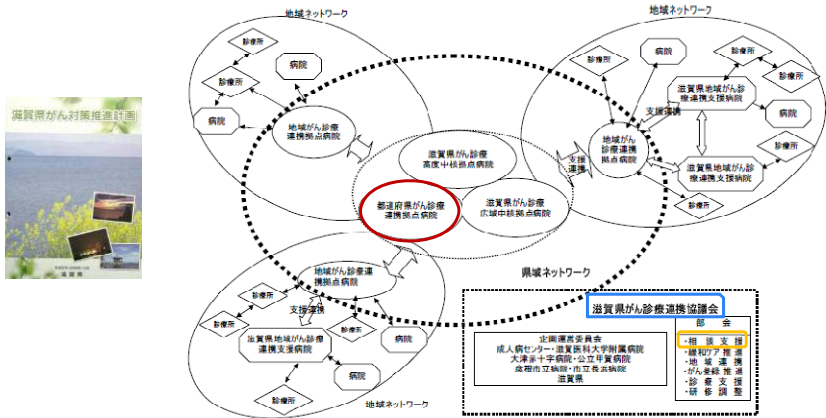
第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
平成23年7月25日(月) 国立がん研究センター

滋賀県におけるがん情報提供と 相談支援

滋賀県がん診療連携協議会の取り組みと 今後の展開

相談支援部会長
鈴木孝世

滋賀県におけるがん医療の取り組み



滋賀県がん診療連携協議会

取り組み 1 滋賀県の実情に応じたがん相談Q&A

がんの原因と予防

このページには、「がんの原因と予防」についてのQ&Aを掲載しています。



2	(2)	何を食べたらがんにならずにすみますか。	<p>「これを食べていればがんにならない」という特定の食べ物は、残念ながらありません。しかし、野菜や果物がいくつかの部位のがんに対して抑制的に働くと言われていています。</p> <p>また、塩分摂取量が多い人ほど胃がんになりやすいことが明らかになっています。食塩が多く使われている食品を食べる頻度の高い人は、少し回数を減らすなど食生活の見直しをするとういでしょう。</p> <p>滋賀県でよく食べられている鮒ずしは、食塩が大変多く使われていますが、ビタミンB1・D・E、レクチンも多く含まれ、レクチンのがんの発生を抑えたり、免疫力を高める作用があると考えられている蛋白質の一つです。</p> <p>ビタミンB1は疲労回復に、ビタミンDは骨の成長に、ビタミンEは細胞の老化防止に作用があると考えられています。そのほか、乳酸菌と酵母菌の発酵によって、腸内の悪玉菌の生育を抑え、整腸作用もあり薬膳、胃腸整理の効能もあります。</p> <p>このように、鮒ずしを例に話しましたが、食物の持つプラスの効能・マイナスの効能を知っておくことも大事です。</p>
---	-----	---------------------	---

滋賀県がん診療連携協議会

5

協議会HPにup

取り組み 2

がん相談支援センター実務者の資質向上

○がん医療フォーラム

- * 平成22年2月5日(金)に行われた「滋賀県がん医療フォーラム」(主催:滋賀県がん診療連携協議会)では、がん相談支援を第2部のテーマとしてとりあげた。
- * 相談員の研修を兼ねて、「がん相談支援」のあり方などについて、がん患者、がん相談実務者、がん診療に携わる医師、がんを体験した医師らがパネルディスカッションを行った。



○相談事例検討会

- * がん診療連携拠点病院のがん相談支援センター相談員が集まり、回答困難な相談事例について検討を行った。(平成23年1月)

滋賀県がん診療連携協議会

6

取り組み 3-1

がん患者サロンの普及 全ての二次医療圏に設置

滋賀県内 がん患者サロン一覧(平成23年度)

開催場所	サロン名	曜日	時間
成人病センター	笑顔	毎月第2水曜日	13時～15時
市立長浜病院	きらめき長浜	毎月第3木曜日	14時～16時
大津赤十字病院	ながら一福	毎月第3金曜日	13時～15時
滋賀医科大学医学部 附属病院	ゆらり	毎月第4金曜日	13時30分 ～15時30分
彦根市立病院	りらく彦根	毎月第4火曜日	13時～15時
公立甲賀病院	ゆかい(癒会) こうが	毎月第1水曜日	13時30分 ～15時30分
高島働く女性の家	ほっと湖西	奇数月第2火曜日	13時30分 ～15時30分

滋賀県がん診療連携協議会

7

がん患者サロン「笑顔」

成人病センターは、滋賀県がん患者団体連絡協議会の協力のもと、がん患者さんやご家族の方の病気の再発を予防するための場として、「がん患者サロン『笑顔』」を開催しています。
 がん患者さんやご家族の方の病気の再発を予防するための場として、再発等について話し合い、安否を確認しあう機会を設けて開催する場です。
 参加費は無料です。参加費が滞りなく支払われるように、事前に申し込みをお願いします。参加費滞りなく支払われるように、事前に申し込みをお願いします。参加費滞りなく支払われるように、事前に申し込みをお願いします。

H23年度開催日：原則として毎月第2水曜日

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10日	11日	8日	10日	10日	14日	12日	9日	14日	11日	8日	14日

時間：午後1時～3時

場所：成人病センター

新館11階 会議室

定員：20名（ご家族のみの参加も可）



取り組み 3-2

がん患者サロンの普及



成人病センター患者サロン「笑顔」の様子

- * 話題
 - ・がん再発の不安解消策
 - ・食生活
 - ・免疫力を高める方法 など
- * 参加人数

開催場所により異なるが、成人病センターでは、10名前後
- * 参加者の声

「参加して心が楽になった」
「前向きに過ごしたいと思うようになった」 など

滋賀県がん診療連携協議会

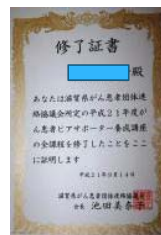
8

取り組み 4

がん患者ピアサポーター養成講座への協力



- * 目的
がん患者サロンのファシリテーター(世話人)であるピアサポーターの養成を行う(2次医療圏あたり5名以上)
- * 受講者(H23より公募)
平成21年度19名(全員修了)
平成22年度16名(全員修了)
平成23年度27名(受講中)
- * 場所
県の施設、がん診療連携拠点病院等
- * 講師
がん診療連携拠点病院の医師、看護師、SCW、臨床心理士等
- * 講義内容
概論・診断学・治療学から心理学まで
広範囲に渡る:7日間・のべ22時間(H23)
- * 県補助金
600千円



滋賀県がん診療連携協議会

9

取り組み 5

がん体験バンクの設立・冊子発行への協力

- * 滋賀県がん患者団体連絡協議会が平成22年12月に立ち上げた、がん患者さんやその家族の体験を集めた「がん体験バンク」の設立に協力した。
- * この「がん体験バンク」を活用して発行される小冊子「こころ綴り・あした天気にな〜れ」について、監修・配付等で協力する。
これは、がん患者サロンに来られない方々でも、同じ「滋賀県のがん患者さん」のがんの体験に触れることができるようにして、一人で悩まないようにと作成されるものである。



滋賀県がん診療連携協議会

10

取り組み 6

テレビ番組を通じた健康情報の発信



身近な疾病に対する正しい知識、適切な治療方法や予防策、
健康づくりへのアドバイスなどをお届けする健康情報番組です。
今回は滋賀県内の各医療スタッフが登場し、「がんを知る」をテーマに、
幅広い年代の方々がわかりやすく参加します。



監修 佐川博徳



びわ湖放送「いきいき健康ライフ」

- 5分間の健康情報番組
- がん診療連携拠点病院の医師等が出演
- わかりやすく解説

放送終了後はYoutubeにアップロードし、
高画質で配信



滋賀県における情報提供・相談支援の新たな展開



- * 滋賀県版「患者必携」の作成
- * 遠隔がん相談支援
- * 外国籍患者さんへのがん相談支援
- * 難治がん/若年性乳がん等、心理学的に負担の多いがんの相談支援事業の設立

遠隔がん相談支援 ICTを活用したがん相談



滋賀県はその中央に琵琶湖が位置し、東西の移動に時間がかかる。また、大規模病院が県南部に集中。



希望する病院に相談に行きたくても、行けないことがある。電話相談では相談員の顔が見えず、不安に思う患者さんもいる。



そこで、情報ネットワークシステムを利用し、「顔の見える」相談を行う。自宅にいながら、希望する病院の相談を受けることができる。

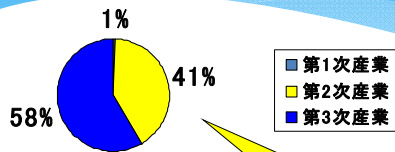


滋賀県がん診療連携協議会

13

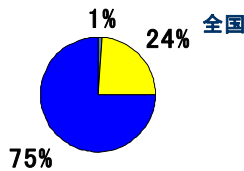
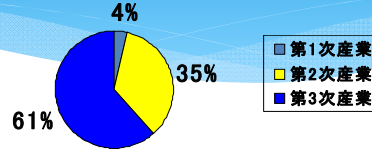
外国籍患者さんへのがん相談支援 1 滋賀県の産業形態

経済活動別県内総生産の構成比

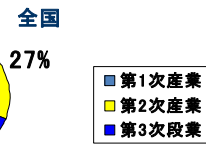


全国第1位

経済活動別就業者数



滋賀県は全国有数の工業県である。



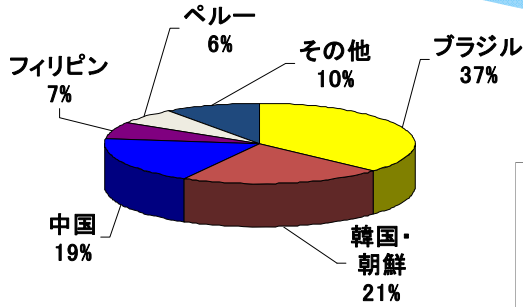
(平成20年度)

滋賀県がん診療連携協議会

14

外国籍患者さんへのがん相談支援 2 滋賀県の外国人登録者数

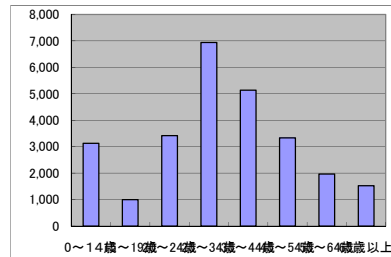
登録者数26,471人(5%)



ブラジル国籍の方が36.8%と、全国では10.8%であるのに対し、きわめて多い。

←工場での労働者やその家族

外国籍住民の年齢層



滋賀県がん診療連携協議会

15

平成22年12月31日現在

外国籍患者さんへのがん相談支援 3 その必要性の認識と課題

- * 言葉の壁
医療用語を正確に翻訳できる人材が必要:特にポルトガル語
- * 文化・宗教・考え方の違い
- * 経済的側面
健康保険・国民健康保険に加入していない方がおられる
- * 外国籍のがん罹患状況が不明(調査なし)

滋賀県国際協会相談員によると
 ・告知に係ることが多い
 ・県内に専門の通訳はいない
 ・1件の相談につき、何回も出向くことが多い

※滋賀県では毎年2回「びわ湖国際医療フォーラム」が開催され、外国籍住民の医療についても熱心に議論されている。

国際社会の一員として、国が主導して
外国籍がん患者の相談支援システムを
創設する必要がある

滋賀県がん診療連携協議会

16

結 語



- * 滋賀県がん診療連携協議会におけるがん情報提供・相談支援に係る取り組みを報告するとともに、今後の展開について述べた。
- * がん対策推進計画の策定、および協議会の立ち上げについては後発県となったが、滋賀県の独自性を生かした情報提供・相談支援体制を構築しつつある。
- * 当該事業を推進するにおいては、滋賀県がん患者団体連絡協議会を始め、担がん患者さんとその家族の思いが原動力であり続けられると思われる。
- * 魅力ある情報提供・相談支援事業には、ハード面の整備はもとより新たな取り組み・工夫が不可欠である。